

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673200416
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会
事業所名	グループホーム まつやま
訪問調査日	平成 19 年 6 月 8 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	673200416		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホーム まつやま		
所在地 (電話番号)	山形県酒田市字西田12-5 (電話) 0234-61-4088		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年6月8日	評価確定日	平成19年8月10日

【情報提供票より】(平成19年5月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14.25 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(5月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	1 名	要介護2	9 名			
要介護3	8 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	83.5 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	酒田市国民健康保険松山診療所・五十嵐歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いた町の郊外に位置するホームの大きな窓からは、広大な庄内平野が一望でき、ゆったりと穏やかな雰囲気の中で生活することができます。
開設して2年目を迎えた比較的新しいホームですが、事業所を運営する法人が特別養護老人ホームや複数のグループホームを運営していることに加え、職員の異動がプラスに働いたこともあり、利用者支援、介護計画と介護記録の作成がしっかりとなされています。
また、同じ法人が運営する地域包括支援センターが隣接していること、地域の自治会や老人クラブとの交流が盛んに行われていることなどから、地域の中の福祉の拠点としての活躍がこれからも期待されます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念や職員の行動指針が家族や来訪者にも分かる場所に掲示されている。また、トイレのガラスにシールを貼り中が透けて見えないようにしたことが、同時にいいアクセントにもなっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で話し合い、確認しながら自己評価を行っている。昨年度の外部評価の課題については、職員で取り組み、全て改善している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員、自治会長、家族等の参加による運営推進会議では、ホームの防災やボランティアの活用、広報やピーアールの仕方などについて検討している。また、検討結果を踏まえ、年2回の防災訓練に消防署職員、市職員、近隣住民も参加してもらったり、地域の協力を得た形でボランティアの活用も進められている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に設置している苦情箱にはほとんど意見は出されないが、面会時や電話等により気軽に話し合える環境づくりを行って話し合うようにしている。また、その際に家族から出された不安や心配事については、相談票に記録として残して、職員で検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会長や近隣住民の方と連携をとりながら、老人クラブに除草や野菜の植え付けのボランティアを依頼したり、地域の婦人たちから「笹巻き」作りなどの協力を得ており、また、ホームのある地域の祭りや利用者の出身地の祭りにも参加しながら地域連携を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念が先に作成されていたが、ホームも地域密着型サービスの役割を考えながら作り上げ、ホーム内の見える所に貼り出している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が目を通して意識できるよう、毎朝のミーティングを行う場所にも掲げて、確認するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長や近隣住民の方と連携をとりながら、老人クラブに除草や野菜の植え付けのボランティアを依頼したり、地域の婦人たちから「笹巻き」作りなどの協力を得ており、また、ホームのある地域の祭りや利用者の出身地の祭りにも参加しながら地域連携を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合い、確認しながら自己評価を行っている。昨年度の外部評価の課題については、職員で取り組み、全て改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、自治会長、家族等の参加による運営推進会議では、ホームの防災やボランティアの活用、広報やピーアールの仕方などについて検討している。また、検討結果を踏まえ、年2回の防災訓練に消防署職員、市職員、近隣住民も参加してもらったり、地域の協力を得た形でボランティアの活用も進められている。		

山形県 グループホームまつやま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市福祉課への訪問や連絡する機会も多く、その都度相談や話し合いを行っている。ホームで行っている防災訓練には市職員も参加しており、ハザードマップの避難場所の確保の面でも協力してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを3ヶ月毎に送付しており、それ以外の月には近況報告書を送っている。また、その際に小遣い帳の写しと領収書の原本を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置している苦情箱にはほとんど意見は出されないが、面会時や電話等により気軽に話し合える環境づくりを行って話し合うようにしている。また、その際に家族から出された不安や心配事については、相談票に記録として残して、職員で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等もできるだけ利用者へのダメージにならないよう少なくし、利用者馴染みの関係を築きながら支援できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り内部・外部研修に参加するよう努めており、外部講師を運営法人として招いた研修には管理者が参加し、職員に伝達するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と庄内地区の協議会に参加して交換研修を行っている。また、同一法人が運営する他ホームとの合同研修なども行いながら、質の向上に向けた取り組みを進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や畑仕事などの場面を通して、利用者からも教わり、共に協働しながら支えあう関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や家族の意見を聞きながら、一人ひとりの思いや意向を検討し、複数の課題分析方法にも取り組んできている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いの内容や職員の日頃の気付きも含め、課題分析の実施、話し合いによる検討、継続的な点検を行い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて検討、見直しを行っており、状態が変化した場合は、期間の終了前でも検討、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホームの協力医の他に、本人、家族の希望により利用 前のかかりつけ医に通っている方もおり、遠くても職員 が付き添って通院するなど支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化に伴い、終末期の意思確認書を利用者全員に 説明し、取り交わしている。今後は利用開始時に文書 を取り交わす予定で、利用開始の段階から本人、家 族、職員で話し合いながら進めていくことにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者の人権やプライバシーについては、職員会議等 で意識の向上を図るように取り組みを進めている。ま た、職員からは入職時に守秘義務についての誓約書 を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者の状態やペースに合わせ て支援しており、その日その時の希望や体調に配慮し ている。		

山形県 グループホームまつやま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当初はホームで献立を立てていたが、太る人がでてきたため法人内の栄養士からメニューを作成してもらっている。旬の材料や行事食を取り入れ、調理や盛り付け、片付け等を利用者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は毎日入浴できるようになっており、できる限り本人の希望により入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや趣味等の把握に努めており、それらを活かした支援を行うようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望やその日の状況により、ドライブや買い物、外食等に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけないようにしており、利用者が外に出て行きそうになる時は、安全に配慮して声をかけたり、付き添って行くようにしている。また、近所の方にも日頃から、見かけた際の協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市消防組合に消防計画書を提出し、年2回の避難訓練を年間計画に盛り込んで実施している。また、訓練の際は近隣住民の他、消防署や市職員も参加し協力して行っている。		

山形県 グループホームまつやま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体温・脈・血圧・排泄等の状況とともに、食事や水分摂取状況の確認をチェック表に毎日記録して、一人ひとりの支援につなげている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るくゆったりしている共用空間は、空調にも配慮されており、花や飾りつけ等により季節感もあり、居心地のよい家庭的な雰囲気を醸しだしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、日用品、洗面台があり、また、エアコンや温風で室温調整ができる居心地のよい場所となっている。		